

2023-24 年度

ガバナー 公式訪問

クラブ協議会

と き 令和5年8月30日(水)

ところ ホテル・ヘリテージ飯能sta.

飯能ロータリークラブ 日高ロータリークラブ

●馬場正春会長



マッキナリーRI 会長は、世界的に起きている災害やコロナの流行、ロシアによる戦争などの影響を受けた人々への支援とメンタルヘルスの向上、人道支援を継続的に行うことで、平和で希望のある世界を築く手助け

ができるとおっしゃっています。

高丹ガバナーも、継続させることで今までの活動をさらに前進させ、思いやりをもって地域社会に貢献することが希望に繋がる、という活動内容を多く掲げていらっしゃいます。そのことから、本年度の飯能RCのテーマを「希望を繋ごう」～60期として新たな善いことをしよう～としました。

飯能は「人数が多くて活気があっていいね」と言われることがあります。人の多さだけではなく、内容自体も、クラブ活性化のために努力していく所存です。

活性化とはどういうことか。それはRIのテーマにもある、メンタルヘルス「心の健康」にかかってきます。RI 会長は、他人を助けることで本質的に自身が助けられると述べておられます。心が健康な状態で培われるコミュニケーションは、より良い連帯意識、仲間意識を育み、結果的にクラブの活気に繋がっていくものと思います。そうしたことから、コロナの影響や世界を取り巻く問題が身近になっている今、地域で起こっている問題を取り上げ、人々を助けるための活動を行っていくことが、クラブの活性化と共に多くの人の心の健康にも繋がると私は思うのです。

また、コロナもようやく落ち着き、例会スタイルも元に戻りつつある中、RCが築き上げてきた（高丹ガバナーも推奨されている）継続的な活動を行いながらも、今だからこそ

私達にできる新たな活動を「善いこと」として実現できればと考えています。茂木PGが「善いことって何？」とよくおっしゃいますが私の考えを申し上げますと、「今、この地域で何が困っているのか？」をまず知りたいと思います。たとえば物価高騰による生活苦、等。10月にはそのあたりの現状について詳しい市議の方に卓話をお願いしています。9/17第1回社会奉仕セミナー（東松山市民文化センター）では「埼玉県内における子どもの貧困問題の現状」「子どもの貧困支援の現場から」「深谷4クラブによるこども食堂支援活動について」の講演があります。加藤委員長と参加し飯能RCにフィードバックしたい。子どもを含めて問題点を知り、支援できることは何なのかを会員の皆さんと考えながら、今まで行っていなかった新しい活動を60周年の事業に活かせるようにしたいと思っております。善いことは希望に繋がります。ですから私の代から発信し、次年度にも繋いでいくことを願って、今年度のテーマを「希望を繋ごう」としました。また、今年度も矢島直前会長と同じく親睦を重視しています。私自身、人と接するのが好きなので、会員の皆様とできる限り親睦を深めていきたいと思っております。再度申し上げますが、コミュニケーションから連帯意識と仲間意識が生まれ、良い活動に繋がっていきます。クラブ活性化のためにも親睦活動委員会のご協力の下、楽しい上に、楽しい地域になるための事業を行っていくかと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

●クラブ奉仕委員会 島田秀和委員長

飯能は会員数66名だそうです。一番年配の方が90歳、一番若い方が39歳。51歳の幅のあるメンバー構成です。平均年齢は約70歳。パスト会長が21名居られます。今年60期という節目の年を迎えるにあたり「クラブ奉仕



委員会」の役割について委員会では協議させて頂きました。人数の多さだけでなく、コロナ前の事業をどう展開するか、60期の伝統をどう若い方に浸透させていくかが大きな目標だと思います。

現在、クラブの問題点は出席率の低下と“伝統の浸透不足”だと考えます。長年、出席率は92～93%でした。ここ何年かでそれがかなり低下しています。昨年は83.6%。コロナの影響もあるかと思いますが「無断欠勤」（無届欠席）の無いようクラブ奉仕としてもう一度規律を正して事業を展開していきたい。“伝統の浸透不足”と私は思っているのですが、51年差という世代間ギャップの穴を埋め、クラブの伝統をどう浸透させ、継続させていくかが大事ではないかと考えております。会長を終えると遠慮してなかなか意見を言わないという傾向があるようですが、66名中21名がパスト会長です。世代交代を少しずつ感じておりますが飯能の伝統を引き継いで頂くため、是非いろいろな場でパスト会長に大きな声を上げて頂き、いろいろなご指導を頂くようにご協力をよろしくお願い申し上げます。

出席向上・プログラム・ロータリー情報・親睦活動の各委員会と連携して活動すると共に、会長・幹事・各委員長にはなかなか踏み込めないような内容をあえて「クラブ奉仕委員会」の目標として活動に取り組みたいと考えております。是非ともご協力賜りますようお願い申し上げます。

●職業奉仕委員会 伊澤健司委員長



大木重雄、安藤泰雄、前島宏之委員と担当。

奉仕の第2部門である職業奉仕の目的は「職業上の高い倫理基準を保ち役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリー各人の職業を高潔なものとする」と定義されています。

職業奉仕の実践についてRIはいくつかの方法を紹介しています。

- 例会で各会員が自分の職業について話し互いの職業について学び合う。
- 地域社会での奉仕プロジェクトで、職業スキルを活かす。
- 高潔の精神で仕事に取り組み、言動を通

じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す。

- 若者のキャリア目標を支援する。また、専門能力の開発を奨励し、指導する。
- などとあります。

これらを実践することで職業奉仕の理解を深め、また、これに基づき「四つのテスト」やロータリアンの行動規範をより理解し実践して参りたいと思ひ、今年度は、

1. 例会時に「四つのテスト」の唱和
2. 「ロータリアンの行動規範」の普及
3. 職業奉仕月間に卓話の担当
4. その他、職業奉仕に関する活動

を行う予定です。

これらの活動に真摯に取り組むことにより自身のロータリアンとしての成長と、周囲の方や地域社会に「RCとはどのような団体なのか」「他の団体とどう違うのか」「RCの重要性」等を周知し、それによってRCに対する理解の増進、RC会員の増加、地域社会でのRCの影響力の増加、他団体とのパートナーシップの増加などがもたらされ、RCの活性化が図られるのではないかと思います。

●社会奉仕委員会 加藤義明委員長



マッキナリーRI会長のテーマは「世界に希望を生み出そう」。高丹ガバナリーは「希望を語ろう」をスローガンに、人と人との繋がりと共に、単なる“継続”ではなく、継続するためには変化、前進、脱皮することが必要と仰っておられます。

飯能RCの馬場会長は「地域で起こっている身近な問題を取り上げ、人々を助けるための活動を行っていこう。その活動がクラブを活気づかせ、心の健康にも繋がる。心が健康であればそこからたくさんの希望が生まれ、明るい未来に繋がっていく」として、テーマを「希望を繋ごう」とされました。また、サブテーマとして～60期として新たな善いことをしよう～と唱えておられます。

「社会奉仕委員会」には馬場会長より、来年度の60周年以降の飯能RC社会奉仕活動の一つとして「こども食堂の支援の考察」を指示されました。私自身、日本、ましてや飯能周辺に1日3食の食事にも苦勞している子ども達が居るといふ認識さえなく、その現実には愕然としました。まずは会長のお話の通り10月担当例会において、食事に窮する子ども達の現実や「こども食堂」に関して、メンバー皆

さんで認知していくことからスタートしていきたくて思っております。講師との打ち合わせの中で、「子ども食堂に行く／来る」ということが、子ども達のコミュニティーの中で差別を生んでいるという話も聞きました。お金で支援するという単純なことでもないようですし、単年度で終わらせる事業でもありません。ガバナーが仰っている通り、単純な継続だけではなく、時代と共に変化をし、前進しなければなりませんけれども、将来発展的に中心的な方にその事業を引き継ぐ等、クラブにとって、この事業の“着地点”も見据えてスタートしなければならないと、個人的には思っております。次年度を含め、いろいろな模索をしていきたくて思っています。どうぞよろしくお願い致します。

●国際奉仕委員会（沢辺委員長代理）中里昌平委員



飯能RCにおける「国際奉仕委員会」の事業は今まで、留学生受け入れ事業、韓国・東清州RCとの交流、ベトナムの小学校にPC等を贈る事業等を行って参りました。また、近年は、飯能市国際交流協会が主催するスピーチコンテストに協賛し、例会で優秀者のスピーチをして頂く事業を行っています。

今年度はこれをさらに発展させ、スピーチコンテスト参加者に加え、広く参加を呼びかけて、海外からの人達と積極的に触れ合い、日本の良さを知り、日本を好きになって帰国して頂くようにしたいと考えております。

テーマは「（日本が世界の識者から評価されている）輝く日本の歴史と（賛辞の止まない）日本の道徳心の成り立ちを学ぶ会」としたいと思います。覇権をめぐる抗争に明け暮れた長い歴史をもつ大陸から離れて、自然に恵まれた島々で神に祈りながら独特の文化や人間観、道徳心を養い続けた日本という国に、他国の若者は驚きをもつに違いありません。また、明治維新で素晴らしいスタートをした日本が、何故途中から軍事国家になり、大きな戦争に引き込まれたのか。他国の若者にも日本人の深い反省を知ってもらうのも大切なことと考えております。内容としては、専門的知識のある講師を招き、日本の良さとRCの素晴らしさを大いにアピールしたいと考えております。また、祖国を遠く離れた外国人の皆さんにはさまざまな苦労や悩みがあると思いますので、それにもしっかりと対応して参りたいと考えております。

●青少年奉仕委員会 都築敏夫委員長



青少年奉仕活動はRCの五大奉仕部門の一つであり活動の骨子となるものであると考えております。青少年が希望をもって未来を語れるよう飯能RCとして地域の青少年の育成・支援に貢献するため、関係諸団体および関連委員会と連携して具体的施策を実施して参ります。

活動計画として、現在取り組んでおりますのが「飯能RC」冠の青少年スポーツ大会：「中学生卓球大会」「少年野球大会」の支援です。また、青少年の健全育成・教育・文化に関連する新規事業も検討し、実施したいと考えております。

青少年奉仕活動はクラブの活性化の観点からしますと即効性のある活動ではないかもしれませんが、今行っている奉仕活動が即クラブの活性化に繋がるというわけではありません。しかし、今実施している青少年奉仕活動は将来のクラブ活性化に繋がると思っております。青少年達の中には、いずれ世界で活躍する人も居るでしょう。また、地域の担い手となり地域のリーダーとなる人も居るでしょう。青少年の活動の場はグローバルであり、ローカルであります。青少年が国際交流を通して異文化を理解しグローバルに活動する。我々はこれらの青少年の活動を支援しなければなりません。一方、ローカルな活動の支援も必要です。スポンサーになっている、青少年スポーツ大会で、RCのメンバーが応援に来る、RCのメンバーから優勝カップを授与される。青少年達はこのような光景を目の当たりにするわけです。RCがスポンサーになってくれるお蔭で自分達はスポーツや活動が楽しく、希望をもってできる、と感じてもらえれば、この奉仕活動は効果的に行われていることになると思います。学校や先生や、市や町ではない、地域の大人が自分達を応援してくれている。そう感じる心を養うことが大切ではないかと思っております。そこに地域の大人と青少年達との信頼が生まれるからです。

飯能クラブのテーマは「希望を繋ごう」です。青少年奉仕によってRCが青少年の希望を繋ぐお手伝いをするということになります。自分達をバックアップしてくれるRCの活動を間近に見て大人になったら、自分も同じように青少年を支援する活動をしたいと思えるかもしれません。これが将来の活性化に繋がるということだと思います。

●(日高) 清水佳代子会長、町田秀雄、武藤和雄、白井威、古本良子、引間豊委員長の発表 (省略)



●高丹ガバナー講評

それぞれの地域でいろんな奉仕活動をされているということを改めて理解させて頂きました。

私が地区の各委員会をお願いしているのはたとえば「増強委員会」と「公共イメージ委員会」、あるいは「青少年」「米山」「財団」、これは青少年関連の委員会です。「わが委員会、わが委員会」という話ではなくて、できるだけ大きなインパクトが得られるような、そういう活動を地区でもしていきたいね、ということなのです。皆さん、よくご理解頂けると思いますが、それでも、「増強」と「公共イメージ」というのは表裏一体のもので、「増強は増強で」というよりも「公共イメージ」と一緒になって推進したならばいろんなことが考えられるのではないかと、というふうに思うところも多くあります。また「社会奉仕」と「職業奉仕」を一緒にいろいろ考えてみたらもっと自分達の幅が広がるのではないかと、という思いも私はしております。

そういうことでですね、より大きなインパクト、つまり、たとえば飯能でしたら「飯能商工会議所」等、他団体との共同、「ボーイスカウト」でもよし、何か一緒にやることによって、我々のRC活動を外から見たら皆さんどう思うのだろう？という視点で活動すると、一般市民、他団体にもアピールできるのではないかと、ということが会員増強にも繋がってくるのではないかと、というふうに思うところがあります。

従いまして、それぞれの委員会がもってい

る事業を、如何に共同でやるか、あるいは、日高と飯能が共同でやるという事業をもっと増やしてもいいかも分かりません。是非発展させて頂きたいなと思います。

最後に皆さんにお願いがございます。

飯能と日高、両クラブのこういうふうな仲の良い共同開催というのは私は初めてです。非常に感動しております。

そしてもう一つは、是非ですね、この2クラブからガバナーを出して頂きたいのです。この地域でのガバナーを考えて頂きたい。というよりも戦略計画を練って頂きたいのです。3年から5年の戦略計画を、本当の意味での協議会、皆さんの協議の末に、どういうアイデアが一番いいだろうかということも含めて、3年後なのか5年後なのかは皆さんが決めることなのですが、是非具体的に年を追って、こういうプロセスを踏んで、我がクラブからガバナーを出そうじゃないか、というようなことを是非考えて頂きたい。

それが一番のクラブ活性化に繋がると思いますが、ですから、そういうことを是非考えて頂きたい。

深谷からガバナーが出るのは20年振りです。大体、当地区ではガバナーが出てくるクラブというのが大体決まっていますよね。これは私個人としてはあまり良い傾向ではないと思っています。やはりいろんなクラブが切磋琢磨して、あるいは、こういう人がうちには居るから推薦したい、というところがどんどん出てくれば、地区の活性化にも繋がります、ひいてはクラブの活性化にも繋がります。従いまして、是非ですね、真剣に皆さんで協議をして頂いて、どうやったら3年後、5年後に、このクラブからガバナーを輩出できるかということを考えて頂きたいのです。

ガバナーは一人だけの仕事ではありません。たくさんの人達にそれなりに重要な役割を担ってもらわないとガバナーなんてできるものではありません。そういう視点からも、いろんな角度から皆さんで知恵を絞って名乗りを上げて頂きたいというふうに思います。

今、ガバナーノミニ・デジグネートの募集期間でございます。今年度、間に合うようでしたら是非応募して頂きたいと思うのですが、そういうことがこの地区の活性化に繋がってきます。地区の活性化ができればさらにより多くのクラブの活性化に繋がっていくと確信しております。

皆さんのご協力ご支援を是非お願いしたいと思ひまして、私の講評とさせて頂きます。有難うございました。